

「かこむ」に設置された機器(加古川市で)



ラブ(大西光会長)は3日、新型コロナウイルスの感染対策として、東播磨県民局(加古川市)に、マスクをしたまま接触することなく体温を測れて顔認証もできる機器を寄贈した。40周年記念事業として行ったもので、加古川市にもう一台贈る。

加古川中央L.C 検温機器を寄贈

東播磨県民局などに
加古川中央ライオンズクラブ

機器の前に人が立つと自動で体温を測定し、設定した値より高いとアラームが鳴るなど異常を伝える仕組み。マスクをしたままでも測れるほか、マスクをして

いない人には着用を呼びかけるメッセージも流れる。

同県民局は、年間約21万人の市民らが利用する東播磨生活創造センター「かこむ」(加古川総合庁舎1階)の受付前に設置した。3万人分のデータを蓄積でき、来館者で感染が確認された

場合、二次感染の防止に役立つという。

同センターで贈呈式があり、大西会長が「利用者の安全管理の一助になればいい」とあいさつ。同センターの担当者も「機器の設置で利用者の感染防止意識も高まる」と話した。

加古川市 市役所に自動検温計 中央LC寄贈入り口に設置

加古川市は17日、モニターに顔をかざすだけで自動で体温が測れる検温計を、市役所新館の正面入り口と南側入り口にそれぞれ1台ずつ設置した。新型コロナウイルス感染症防止のため、37・5度以上の場合は入庁を控えてもらう。

加古川中央ライオンズクラブが、結成40周年を記念して寄贈した。

検温計は高さ135センチ。近づくと、触れずに額から赤外線体温を測り、数秒

でモニター(縦23センチ、横14センチ)に映った顔の上に表示する。

市役所には全体で6カ所

の入り口があり、他の4カ所には検温計の設置場所を知らせる案内を掲示。検温を呼び掛けている。

(斉藤正志)

加古川市役所に設置された自動検温計。同市加古川町北在家

